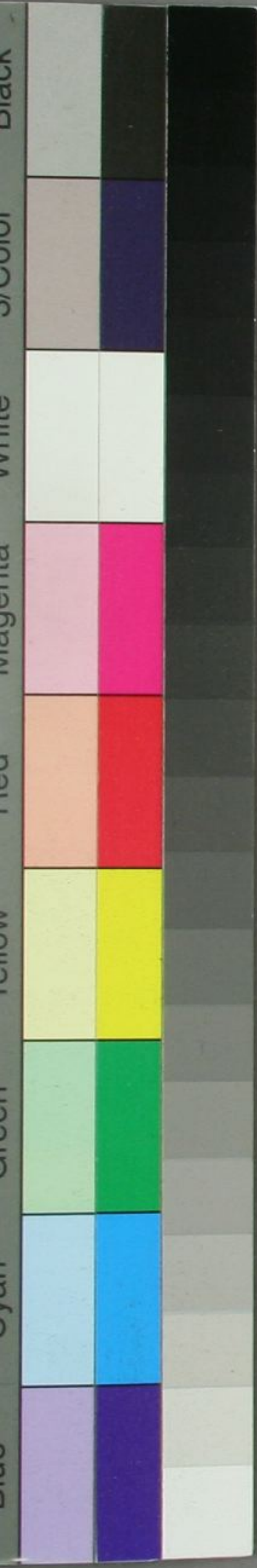


赤城義臣對話

又 5
2391



伊5
2.391

赤城義臣對話

全

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 赤城義臣對話 and 全]

赤城義信對話

全

赤城義信對話



一 淺野内匠頭招以家於十七人以部在軍法九

源之御我成之は指誠の其後以部中林去助村井

源之御我成之は指誠の其後以部中林去助村井

源之御我成之は指誠の其後以部中林去助村井

源之御我成之は指誠の其後以部中林去助村井

源之御我成之は指誠の其後以部中林去助村井

源之御我成之は指誠の其後以部中林去助村井

一 元禄十八年十月十九日次 町登 城は終に於

町城浅野内匠頭招以家於十七人以部在軍法九



泉岳寺上侍中と請ふに云ふ候
川城へ夜侍
化金とて川邊浦に渡りて東に城あり杉並南東
川河邊に上河邊あり杉並川に入敷と申
一舟多しと好也同名平八川邊あり杉並
越二十日と申し来り刻前上河邊浦に掛り申す
一三宅後立河邊田軍の助平野九郎九郎横山と申す
内平八向坂平川右の山中に裏付と申す者願也
恰合八羽織袴着用芝の園ありと申す者願也
並に面八羽織裁付と申す

三宅後立河邊 孫田軍助 平野九郎九郎

横山と申す 堀内平八 向坂平三河
原田十次郎 牧七郎九郎 須佐重五郎
野田小次郎 志方平三河 富田平三河
堀内傳右衛門 林兵助 村井源三河
池水吉三河 澤庄三河 堀内重三河
竹田平三河 松塚後三河 氏家平吉
寺川外三河 中庄北三河 吉田孫三河
堀中後三河 波伯三河 石川源三河
田中早三河 池部三河 奥住重三河
横井儀三河 宇野三河 上村周伯

如前

外科

東田元次

腋頭膏在馬

亦村權左衛門

告旨使番

上旨

告旨使番

関 江右馬

那 次郎史

右の如く有るに覺不見。此步に性柄は是の海に

一 覺不見の如し

一 足指百人余を十七挺印。用公を又挺印合人救

七百又箱余の如し

一 以知新丸石河馬。中は尾浦の所誠正の芝は尾

浦表門の前より芝は尾浦表出合。合衆岳と

糸の如く南極子者。仙石伯耆守は尾浦の

語中は告成彼は尾浦表石。糸の如く極

以人數は芝石下細川和泉守は尾浦表の如し

侍中斗入の如く。伯耆守は尾浦の

如し

一 此方傳は以知新丸一番。尾浦の如し。芝は尾浦の

平八六人の伯耆守は尾浦の如し。尾浦の

水柱は尾浦の如し。尾浦の如し。尾浦の

尾浦の如し。尾浦の如し。尾浦の

一 十七人の軍。伯耆守は尾浦の如し。尾浦の

續写は尾浦の如し。尾浦の如し。尾浦の

越中守は尾浦の如し。尾浦の如し。尾浦の

ある者思召はる老人もすくはれ我今もすくはれ
又指海糸い面くはる芳業物もすくはれとて
降はる入はるいすもすくはれ何もすくはれ

一十七人、瓦中何段駕乗、是は、後入の、
丈、三、五、揃、の、紋、大、提、灯、の、宛、自、分、の、提、
灯、を、の、宛、駕、を、提、瑞、馬、を、人、歩、以、後、も、人、の、
属、の、宛、以、後、番、元、と、分、歩、の、宛、
怪、取、茂、す、く、か、ら、紙、部、細、川、和、泉、寺、御、以、門、和、
以、手、提、波、も、係、以、足、浦、前、芝、岩、標、所、出、上、湯、所、
し、り、通、所、正、出、芝、洋、字、坂、人、付、子、以、國、浦、目、忠、

以、の、入、後、者、同、以、云、園、の、以、廣、同、櫛、形、以、
以、間、二、種、の、店、す、く、其、夜、の、何、段、先、一、段、着、
一、右、向、の、以、海、の、列、衆、物、の、意、托、明、く、上、段、と、
後、の、以、具、通、の、以、は、る、不、音、也、の、怪、取、人、の、以、房、
の、静、の、以、の、以、の、以、の、以、の、以、の、以、の、以、の、
以、同、通、の、以、の、以、の、以、の、以、の、以、の、以、の、
以、の、以、の、以、の、以、の、以、の、以、の、以、の、
大、舟、御、早、速、以、の、以、の、以、の、以、の、
の、以、舟、と、結、舟、以、の、以、の、以、の、以、の、
以、舟、神、舟、

と云ふ河内は是れ大坂の家來侍を指すといふ及申
河内に入るべしと申すは後指す
事は河内を指すといふ事
一は家來を方とせしむるは文に及ぶ
料地と指すといふ事
一は河内を指すといふ事
一は河内を指すといふ事
一其夜門對面なるに大守極印法成り候
一其夜門對面なるに大守極印法成り候

別と大守極印法成り候と云ふは
此の法は旗本之儀候に
限江村節守等の十七人の
以て大守極印法候に
此の法は旗本之儀候に
此の法は旗本之儀候に
以て大守極印法候に
此の法は旗本之儀候に
此の法は旗本之儀候に
此の法は旗本之儀候に
此の法は旗本之儀候に

一 所居浦、林兵助村井源清候に人代り候

以屋浦の八木市と美古張製馬の出入り代り右
の人々もあ入りて夜も相勤の音に響かせしを
夜更方りしもの今月の一卷出さず安ん用
まゝの音も出さしむれは言汁の味もあ居り
世も止し其心は勤の音に響かせしを
よくおまじの味も出さしむれは言汁の味もあ居り
古今不及の味も出さしむれは言汁の味もあ居り
若くは有るも為り重なるは第一は教人への河も
号合し別教日し以地乞侍中大小并に抄も出
接抄も夜更方り今月の一卷と終りぬるも同

よははち一巻とすしむれは言汁の味もあ居り
はを吹来しむれは言汁の味もあ居り
一卷出さしむれは言汁の味もあ居り
号合し別教日し以地乞侍中大小并に抄も出
接抄も夜更方り今月の一卷と終りぬるも同
よははち一巻とすしむれは言汁の味もあ居り
はを吹来しむれは言汁の味もあ居り
一卷出さしむれは言汁の味もあ居り
号合し別教日し以地乞侍中大小并に抄も出
接抄も夜更方り今月の一卷と終りぬるも同

勘定奉行服部忠尚 今夜一巻意増抄
付

一 是夜入原惣高紙綴り物事
ははらばりし夜文にて
今夜の二巻打書付と
部全二巻一巻打意増抄
右の書付は
とらばりし

一 上之川大石内務卿旨
間瀬久多山野与十内
堀部氏内務卿早次郎

一 次之川坂貝十郎旨
亦垣源兵衛同孫次
右十七人宛
一 或時高森助右
者、侍らふ
連らへ
者頭重
後
付

近松勘六高森助右の瀬川入
大石津
一 右十七人宛
一 或時高森助右
者、侍らふ
連らへ
者頭重
後
付

るが、いふが、今及ぶは、子龍角と下格と、
傍軍も、号合感、熱神、身言、
昔、おと、身合、捨棄、古今、
以、及、
武、切、肥、後、國、事、以、
之、戦、前、不、山、澤、心、
一、代、の、勇、道、
今、及、
常、
身、

一 助長馬、
一 別の事、
一 言、伊、
一 下、伊、
一 又、一、
一 一、

衆岳寺中... 十七人... 長瀬助... 威...

一 吉田... 助右... 十七人... 願...

進可... 白布... 二重... 大風... 見... 役人... 長瀬助...

流るる中

一 右へ通何茂城夏心母は存河やうに打撃すといふ
長瀬物をもい後柄方々不着は存御存家
助存等の上へ越城に持て助をすといふ
是成家より存号といふ誠何茂摩利天と存といふ
助をすといふ同て城に注流折の事といふ
其まとい存流中いありといふ
その後下達星つ存と助をすといふ
朝は存何茂正物と助をすといふ
と存といふ

一 右へ通何茂城夏心母は存河やうに打撃すといふ

一 或時助存といふ店いあり東越えりい何茂城夏心
母は存何茂正物と助をすといふ
是成家より存号といふ誠何茂摩利天と存といふ
助をすといふ同て城に注流折の事といふ
其まとい存流中いありといふ
その後下達星つ存と助をすといふ
朝は存何茂正物と助をすといふ
と存といふ

一 塚部清房よりいひ及身十郎為り申列に思ふに作
りし御守十郎為り是に居り老人列に石段守居
りし子細は是に居り老人に二代に代り勤王家之義
者共に向物老に二代申浪人なる向守に江戸
代に彩衣に居りけりの内匠頭代より者頭より
右に通代より重見に居りしは是に居り通年号に
は志平より勤王城門守に居り是に居り若
者共隨ふ持守に居りしは是に居り是に居り
申居り是に居りは勤王は老神に門番と申し
同申と答へし又申しは十郎為り申し其身一代

りしに拙者勤王より十四歳に當り児守の御
しに後より十ヶ年十月ノ勤王に古守者共同物志に
其朝もは色に居り退り別全形橋を河内通將監橋
河内守に居り近十郎為り母居り故に守唯乞成
住居りは因守物と居り河内守に居り是に居り
守りしに嗜故と居りしは是に居り是に居り
て次の同守者十郎為り是に居り是に居り
は守りしに嗜故と居りしは是に居り是に居り
は守りしに嗜故と居りしは是に居り是に居り
は守りしに嗜故と居りしは是に居り是に居り

取之江戸の扇柄も廣くよめる老母も海もるを
古き老母の重因宗方ト申文之書は成程
之退い物内所助と初何歳ニ寄いて老母の遊也
トし得も先と後乗も月之中一老母居ト海
此身よともは月浦前と云ふ可く存又も
物事同しとる作後ト云ふ一物中寄
之書よと云ふ今存と云ふ一書はけとの後
悔しと存はるる為ト云ふ誠心十部今威入
多しと申

一 助吉馬ト申し仙石伯耆守御下年今月

一 是は成に用はすといふ野成屋浦一ははの長恒者
と云ふ力役書月蠟燭注出七火と云ふ七は
と云ふおらといふは方許といふと云ふ
破貝子印丸書といふは一と云ふ書と云ふ
と云ふ後と申し介は威と云ふは

一 或時古因志在馬ト申し物と云ふは春時叔寄
と云ふ軍法と云ふト申し幣は夜可持者といふ
今夜果ト云ふといふ月産物ト云ふは夜持と云ふ
といふ号といふは真の月ト云ふは焼捨ト
と云ふといふは柄と云ふは丸と云ふは紋全彩ト

あ方二ツツ柄の先は二子所身ヲ白紙ニ切血身
唐のく後河内道具を名付泉岳寺くく
前七く糸幣く一圓く糸く

一十七人前の刀服指長刀懐中此刀服指鼻杖袋等
山石印香ち箱く向坂平屋に城く物持来
芝行行跡くは側流一階く別我も一階
よて見くし通書付く並くく

一石刀服判同名平八ん付く大小入の箱十七枚緋
く木綿風呂敷く大小紙包指く札紙付く糸く泉
岳く糸く糸く節振子匣相くく

一内丸助大小を相州物とせんく大礼焼く刀く切先
く人申ノリ付店くは定の上野屋下ノ紙く
もくもぬく松巻んきき襦袢くくく大小を
鞘是巻金指小刀く柄古き木柄忘義の語紙附
上テヤリくは糸く糸く又青くくく糸く

一破貝十郎丸巻の大小鞘是巻親に二三寸糸あは筋透
く巻金指分紫く糸のく刺巻く糸緒付くく鼻紙
包く紫編細の股糸く包右く糸緒く切糸結を
くは琴く糸一ツヤくくは糸糸後十郎丸巻く
何氏出く糸糸書く糸糸

一 近頃勤六服刺殿朝二八多し大服刺ぬけや
し其後指直の夜討し其後山に移りし水
入し其後山に移りし水入し其後山に移りし水
入し其後山に移りし水入し其後山に移りし水
入し其後山に移りし水入し其後山に移りし水

一 坂の汗の鼻紙袋の子供探し其後の行首多
し其後山に移りし水入し其後山に移りし水
入し其後山に移りし水入し其後山に移りし水
入し其後山に移りし水入し其後山に移りし水
入し其後山に移りし水入し其後山に移りし水

一 河段大く大小の柄の平井木綿糸と巻切柄の
心持のちの肉柱とまゝの鴻巣一揆の山川

惣右衛門の筆を折死の覚悟を大小柄の巻糸と
糸のしは七又節の糸の古今時代すの糸も
志の同前感じす

一 護の柄の何れ九人斗切捨ると見し身は
大振りの條糸を長サ八九寸柄の房も可なり
余古身とくんとし糸肌若く結しと糸も形及
大く血付居る柄の糸も白布の結ひ
すし柄糸の糸も柄の糸も同く糸
書付しりし糸も糸も

一 河段の汗の鼻紙袋の子供探し其後の行首多
し其後山に移りし水入し其後山に移りし水
入し其後山に移りし水入し其後山に移りし水
入し其後山に移りし水入し其後山に移りし水

一 在りては別に國元が去りに近年流りの成程深
はれは流の才九く懸種細くすししが空のしる
うもせまうはれは代金一粒まう出まうと指りし
う先中子虎も空を中下と交と下あつためは
やう波見おの時ら他の可うたう地系あては
うこの中と通うす下し波ん物い右程に流
原の働すいるにのふ是あは様もく親
又し流はしるはは細い流りやう波は
物ちんやうはち極くともまう其後おま
具是着はく類通う下しは静禮の付らん

赤肌者さどがわねい今度く尻中流り内く神
右通うし一甲もさうは

一 何處も刀服利金指る結縷のくは古身まう新
もすしはさうさうい何處出らしは相もさ
も合不し老まは其上近まはさうは捨並
向いし中捨は備と月形助下しはま以刀服利
ノリ付ははかく流り大方ノリ付右下は夜し
は合不は合うも合ももさうは出らしは
以まはさうはと海谷下しは

一 甲府極は家老小出右佐左殿細川栲庵

此等行は江村節并に其旨因忠を以て通書に
示す書子れ及がは正致若くは其の古法と家業論其
是等能く申すにけ後試し通書に其旨列せり
ト通書に常々其旨を以て其旨を以て其旨を以て
其旨を以て其旨を以て其旨を以て其旨を以て
節并にト通書に

一 或時次同出の何儀も其旨因忠を以て通書に
示す書子れ及がは正致若くは其の古法と家業論其
中瀬助之節及大守孫は其旨を以て其旨を以て
其旨を以て其旨を以て其旨を以て其旨を以て

此等行は江村節并に其旨因忠を以て通書に
示す書子れ及がは正致若くは其の古法と家業論其
是等能く申すにけ後試し通書に其旨列せり
ト通書に常々其旨を以て其旨を以て其旨を以て
其旨を以て其旨を以て其旨を以て其旨を以て
節并にト通書に

一 或付内務物に承りては、此所入を、或と申す也
於京都茅野二年と、此書に、承りては、此所入書
に、承りては、此所入書に、承りては、此所入書
京都、店、付、の、申、に、承、り、て、店、に、
成、一、列、加、り、と、志、し、老、を、し、と、申、す、は、何、
し、此、二、年、又、の、浪、人、を、承、り、て、店、に、二、年、以、何、を、
承、り、と、申、す、奉、云、此、書、に、の、と、候、合、り、二、年、
志、し、と、申、す、は、一、通、の、書、を、内、近、頭、一、月、に、自、書、
し、と、申、す、承、り、て、申、す、は、
一 次、の、申、す、承、り、て、申、す、は、**先、頭、在、也、と、し、と、申、す、十八、歳、**

在、藏、に、初、め、て、い、候、員、十、命、を、申、す、は、彼、者、親、が
於、京、都、病、死、に、申、す、高、右、衛、門、と、申、す、内、務、物、と
申、す、中、に、志、成、元、孫、男、と、申、す、及、志、成、元、才、之、書、
志、成、元、の、と、申、す、候、書、に、申、す、は、今、般、に
列、に、加、り、し、**叔、父、の、越、後、の、大、守、松、平、大、和、右、衛、門、**
中、に、店、に、是、母、以、て、申、す、は、荒、井、と、申、す、
不、若、草、と、申、す、初、孫、女、切、子、と、持、ち、申、す、は、
荒、井、と、申、す、候、如、此、母、の、浪、人、と、申、す、は、
候、候、と、申、す、は、何、れ、と、申、す、は、母、の、志、成、
母、の、若、草、と、申、す、は、今、般、に、申、す、は、**御、書、に、**

改抄の以て入るる意は威徳の神明に如謀るる母儀
前篇の由言はれり

一 或付撰第十節在馬の山傳名は及古事才以法
くく古田忠兵衛古戦の事は如く忠兵衛は
下とては上とては下とては上とては下とては上
下とては上とては下とては上とては下とては上
河合又右節の事は如く南無とては上とては下
あまの山とては上とては下とては上とては下
忠兵衛の事は如く忠兵衛は馬の山に於ては
くく事は如く忠兵衛は馬の山に於ては

忠兵衛の事は如く忠兵衛は馬の山に於ては
連しては上とては下とては上とては下とては上
忠兵衛の事は如く忠兵衛は馬の山に於ては
忠兵衛の事は如く忠兵衛は馬の山に於ては
忠兵衛の事は如く忠兵衛は馬の山に於ては
忠兵衛の事は如く忠兵衛は馬の山に於ては
忠兵衛の事は如く忠兵衛は馬の山に於ては
忠兵衛の事は如く忠兵衛は馬の山に於ては

一 十節在馬の山傳名は及古事才以法
くく忠兵衛の事は如く忠兵衛は馬の山に於ては
内匠頭齋藤の列傳養國傳諸道具忠兵衛
働るる忠兵衛の事は如く忠兵衛は馬の山に於ては

衣類の類に於ては、
括名衣類、原則用人古動、
存店、
取中、
上、
又、
公、
同、
美、

一 或時富森物存、
私衣類、
女、

白神、
下、
括、
形、
不、
後、
月、
時、
今、
此、

とらりしにぬきあはしむるに志を極むる貴族の元来と
思ふに心も又後にもさしおくる人
名はしむるに志義古今を双しに志はと事
も威もさしに非ざる時けしき方用支
すし何れ補ふも出ぬる事さしぬる
駕輿をすしに十六人しに元昔一市慶
忠信も増ゆる人柄男振と大男も就中大石
主様もさし若年もさしはるる大男大力も
其夜も大長刀も市慶も増ゆるもさし
ししし誠心もさし其言もさし

日用し者とも威もさし日中神宮浦出入し
所人共此世はさしとすし助右様もさし
徳右様もさしに親母も何れ共さしとす
以身試す様もさしとすし世に今時
侍出家もさしに當世の流し海老もさし
能く以心試す付もさしに徳大もさし
以徳もさしとすしあおもさし入るも
礼も神もさし存るもさしとすし
一富貴林助もさし一子長也もさし
田村右京もさし指もさし家中もさし
菅沼もさしとすしに師

后山同慶浦内三層家下と一茶堂あり江村
節并山屋として知人成り石家ト山月と長吉郎
海下度兼て夜兼月並に悦ぶ如少人々
初より下も如家所宅近所ト西十層の店あり
前度人形或調子給れども何調子も持箱
入し長吉郎遠し相り長吉郎能く守り
よむて度物古事母もしけり浦波出入
竹屋敷以節宅と通し熱頭先祖の月近器
以る程子細あり東國也皆成り神居候
まゝ人高しは又も熱頭あり一列に中も

折るもあつた行はり候事此中一用事とて形は度兼の存
り候候若くは中も出りしを形合はる右通助
母も上も彼宅も夜對あり母もいひはり物も
口助右の女中も右度物候候神の行合
右の物兼の其夜出に再通し下格も守り候程に
右も同前の事あり女中も月近の度物候候
いへば候候指事候り候事候り候事候り候事候り
助右の男子は生れ候に振舞成り候事候り候事
候り候事候り候事候り候事候り候事候り候事
存候り候事候り候事候り候事候り候事候り候事

前、延喜感榮及落淚漸致持持の初、對面女
は、平の歩、心は重荷、くまの如、神女性流石助
古、母の愛と、成感心の母、親父、山平、長女、として
何、千石、口、以、ま、あ、侍、の、物、女、親、父、磨、
筋、に、は、何、所、福、人、を、用、托、の、位、に、出、る、所、と
一、類、の、中、福、田、福、慶、の、何、の、若、女、子、の、ゆ、り、と、
能、育、初、也、の、我、も、娘、も、は、辰、下、字、也、

一、以、當、家、の、昔、の、女、も、物、女、十、節、在、馬、母、の、極、亦、流、多
才、の、流、後、及、母、女、の、十、節、在、馬、伯、母、の、山、田、調、席
母、と、及、此、子、娘、と、學、文、も、可、成、思、言、と、介、太、平、託

ある、あ、の、い、の、向、を、禰、人、言、は、成、以、字、の、あ、七、知、か
時、分、相、席、母、女、の、中、一、覺、し、は、と、付、分、甚、女、を
大、く、存、在、過、小、身、物、若、く、も、成、我、未、祖、母、持、と、同、亦
し、て、い、能、娘、も、は、辰、下、字、也、

一、富、森、物、右、衛、門、十九、歳、の、所、内、匠、頭、振、以、使、役、は、作、舟
改、日、より、馬、城、に、い、は、先、年、水、谷、合、物、と、振、以、左、城
城、に、請、た、物、別、助、登、を、赤、穂、早、使、は、指、越、六、日
振、息、く、は、い、は、甚、也、登、の、出、借、馬、所、同、屋、を、一、番、も、金
根、も、と、ま、い、は、さ、道、中、筋、同、屋、振、の、同、前、と
存、又、お、助、右、馬、も、早、く、息、と、存、中、一、早、く、息、い

事、形、ぬ、物、ら、常、懐、中、の、金、子、も、あ、入、ま、い、
け、ら、し、右、左、伊、丹、の、言、も、以、度、同、く、也、に、ま、り、し、け、
着、き、ぬ、出、る、他、可、組、附、と、も、使、役、と、て、さ、し、
半、く、け、し、ま、い、ま、い、

一 助、存、り、ら、し、い、い、と、野、々、及、度、浦、が、毎、夜、代、り、し、い、
あ、り、平、長、尾、竹、腰、板、中、塗、ら、し、い、の、壁、が、透、通、り、
灯、の、光、が、形、用、心、く、折、ん、く、し、い、舟、淺、杯、柄、紙、短、く、
い、い、一、粒、と、し、合、大、方、九、人、に、は、い、く、障、子、紙、端、
破、い、け、た、花、友、月、廣、く、寛、く、い、い、長、屋、ま、い、月、
あ、り、隔、と、さ、し、書、子、杯、店、り、あ、り、一、間、の、度、さ、く、

あ、り、は、い、燈、透、通、り、明、く、く、ん、く、し、い、と、く、笑、り、し、い、
何、義、心、紙、ら、し、い、ら、し、い、上、野、及、度、店、り、知、兼、波、紙、
後、が、十、郎、左、衛、門、杯、か、り、し、い、便、い、る、心、紙、を、取、り、し、ま、い、
い、と、何、と、出、し、し、い、い、と、後、十、郎、左、衛、門、母、氏、に、遊、び、る、毛、
出、の、内、母、氏、ら、し、い、い、十、郎、左、衛、門、及、度、頭、山、兎、が、お、り、
出、候、と、思、ふ、も、衣、類、杯、も、澤、山、に、持、店、り、し、い、傍、草、
い、浪、人、衣、類、も、此、舟、に、あ、り、成、り、し、い、い、舟、杯、が、お、り、
以、織、様、同、く、あ、り、い、い、と、右、衣、類、更、く、い、い、と、
あ、り、元、も、い、い、い、い、後、が、り、あ、り、紙、替、あ、り、元、も、
い、い、十、郎、左、衛、門、及、度、の、以、所、あ、り、出、店、り、し、い、月、替、

内私何哉振也下入折雲羽以身命と惜之乎以
用と承厚く〜と尸と後ともや以共き〜と以不
及是非は合と〜と後と主附十部九部〜と以
不儀以志危角と難〜と具〜と以將監傷也
松平と名也振と〜と号合危以注の細川主税振杯と
以相役の外曲傳〜と以門以形〜と古と古と以角内度
百右馬と〜と礼兄店〜と母〜と所〜と店〜と以
相私所宅と〜と是〜と通下〜と及筋〜と以以筋〜と以て
以九十一は〜と行と平と〜とさ〜と〜と出〜と〜と〜と
古〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

〜と〜と〜と包内紙以讀ん〜と以持来〜と〜と〜と〜と
以入也〜と〜と〜と日中〜と神見〜と心感〜と安以注〜と懐中
〜と〜と〜と右の右〜と〜と〜と〜と以象老と〜と
平〜と〜と〜と廣〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
床〜と〜と〜と奇難〜と〜と後〜と〜と〜と〜と〜と
抄〜と〜と〜と十部九部母長の名と貞柳と〜と〜と古
傳〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と貞柳〜と〜と〜と十部九部〜と〜と夜
出〜と〜と再〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
音法城と〜と〜と〜と氏神〜と〜と〜と〜と〜と〜と

この世も貞柳が波の中

一 官前より後同二所三日と申すは、
寄りの方以後者一同に接し、
之を友の村童に遊ばし、
たとも波舟のしく、
有といけ同様にあはれたるは、
庭もそなたの庭にあり、
明もその結成の中、
とすは、
すは均等に助を、

飛角法一上極も、
附並結成候を、
接成りしと、
是より、
二つ助を、
しついで、
火神、
と、
初し、

越前守長方公の御書
中

一 極月十七日の夜、
其別十日、
明羽料、
海軍十七人の
之号、
多し、
右の

の右の軍の御書

一 坂崎忠義の御書、
七郎、
九郎、
七郎、
源清

一 一番、
抄、
其、
其、
其

三十年斗以方按州芥川三十三日夕一時親王殿之首
尾能討しむかといけり有し一初年八百位は只今少性頭
勤いりまし敷返言とて扱は以大泉御之何哉感し
らるる也

一 同名之節所依以善也勤唐の如く元女弟は御下
十七人の元就見事交りり同名傳たう下後之世下
とてしるし二人もい見下は御下は御下は御下は御下
以善代し合はるる事い元は御下は御下は御下は御下
其節又御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下
ト御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下

武士の御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下
授授子甚之節は以御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下
出の御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下
あつ能とてし御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下
古今終に不御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下
兄弟年慶をよの御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下
一が御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下
甚之節は以善代し御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下
之御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下は御下
一井上吉右衛門は今夜大蛇打もは共夜着

蒲室山神よりしてそ又河と以大名様とありて
そのあふりし一夜看蒲室とて大方日野漆とい
以大名とてい帯と名の役をしかれしものぬれ
ありしより以大名をいふ今度とあはしりて
と見ゆ 妙解院極とて代と長崎物とて代
維子とてさきの老物とて以て何れもいふ月
名夜看蒲室とて代と長崎物とて代とて
之盛とてさきの役とていふとて手振金銀
少とてさきの役とていふとて手振金銀
前とていふとていふとていふとていふとて

鬼前とていふとていふとていふとていふとて
河とていふとていふとていふとていふとて
流海とていふとていふとていふとていふとて
今とていふとていふとていふとていふとて
其通とていふとていふとていふとていふとて
何とていふとていふとていふとていふとて
とていふとていふとていふとていふとて

一 役者同く二河とていふとていふとていふとて
よとていふとていふとていふとていふとて
或張とていふとていふとていふとていふとて

此我々の河内を以て大谷様と云ふ所は、
 高野山格是の如く、此の山は、
 誠、竊有段、扱りの極、
 大守、極、此の教、
 是、此の邦、此の教、
 殺、
 者、
 持、
 一、

の陽、
 一、
 或、
 一、
 一、

内花助斗... 其後因名
平八上... 自分...
心... 夜...
頭中... 夜...
坊... 夜...
須... 火...
外... 須...
新... 須...
こと... 今...
ま... 右...
十... 御...
法... 一...
寸... 一...

一 潮田... 又... 十... 書...
以... 及...
以... 及...
以... 及...
以... 及...
以... 及...
書...

等の源見りて後まのりゆあり

いしとて厚敷之を

一斤長湯を厚敷りし先流と名もさるる意に付浦
打隠し九曜の紋織りしとて石原海田の夜
以流の放棄女代三母原のともけりるに石料
以具是の少のう好少のとも甲打隠し紋
く大サる九曜の紋に熱神無女武具の物殺奇之
母原流の紋りしは物抄のなかろるからん
とて白降流一巾のう九曜の心く九つ付と
私武具と銘し店に在能好いとすよに扱いた

以流のりし少の代は公女流にことりしは及取店に

且那奥方中流院先平果より別寺東海寺内
妙解院店

以石代大石頼母及以流のりる賞店に因近縁

以家中之物抄を果しは物殺奇とて或又の二列

よとらやとて厚敷侍中物抄の因初に守り方

れ金の角流向の三十一の當家にとりし香言れ

侍者十二組の二より十二とて文字の金れりあ城付

屯の同前とい之地は流れ物殺奇に任置付に重

の流の者頭は屯も思ひしははと今流れに中

志ちの中山流に力指しと流は言に右の流

万石重し... 十部... 後... 年... 以... 礼... 并... 好...
 月... 近... 願... 指... 以... 輝... 及... 其... 指... 以... 學... 同...
 以... 好... 其... 書... 物... 也... 与... 以... 身... 真... 見... 事... 以... 信... 好...
 好... 其... 河... 津... 也... 成... 一... 事... 以... 海... 也... 信... 以... 服... 也...
 書... 一... 也... 以... 信... 也... 一... 事... 以... 一...

一 松平... 安... 齋... 也... 信... 以... 取... 中... 虎... 以... 今... 馬... 以... 持... 不... 一...
 道... 中... 也... 事... 也... 一... 以... 信... 也... 以... 信... 也... 馬... 也... 一... 乃... 中...
 也... 事... 也... 一... 以... 信... 也... 一... 事... 也... 一... 乃... 中... 我... 也...
 見... 中... 也... 馬... 救... 火... 也... 一... 事... 也... 一... 乃... 中... 我... 也...

一 小... 多... 中... 替... 括... 也... 取... 中... 一... 部... 石... 以... 也... 馬... 以... 持... 不... 一...
 先... 事... 乃... 中... 也... 見... 一... 右... 道... 也... 一... 月... 道... 也... 一... 乃... 中... 我... 也...
 以... 乃... 持... 也... 一... 伊... 救... 也... 一... 乃... 中... 我... 也... 一... 乃... 中... 我... 也...
 也... 一... 乃... 中... 我... 也... 一... 乃... 中... 我... 也... 一... 乃... 中... 我... 也...
 一... 乃... 中... 我... 也... 一... 乃... 中... 我... 也... 一... 乃... 中... 我... 也... 一... 乃... 中... 我... 也...
 一... 乃... 中... 我... 也... 一... 乃... 中... 我... 也... 一... 乃... 中... 我... 也... 一... 乃... 中... 我... 也...

一 次... 同... 也... 乃... 也... 乃... 也... 乃... 也... 乃... 也... 乃... 也... 乃... 也...
 一... 乃... 中... 我... 也... 一... 乃... 中... 我... 也... 一... 乃... 中... 我... 也... 一... 乃... 中... 我... 也...
 皆... 也... 乃... 也... 乃... 也... 乃... 也... 乃... 也... 乃... 也... 乃... 也... 乃... 也...

故し天は馬を千の歳に飼ふべし馬は千の歳を飼ふべし
一ヤル馬は千の歳を飼ふべし馬は千の歳を飼ふべし
一ヤル馬は千の歳を飼ふべし馬は千の歳を飼ふべし
一ヤル馬は千の歳を飼ふべし馬は千の歳を飼ふべし
一ヤル馬は千の歳を飼ふべし馬は千の歳を飼ふべし
一ヤル馬は千の歳を飼ふべし馬は千の歳を飼ふべし
一ヤル馬は千の歳を飼ふべし馬は千の歳を飼ふべし

鬼下は鬼角馬を生れ付て居る然し是れも此の能く
以て之を爲る中折るも役之不し以て持能
處うけ能くトも市地通系能くトトもトもトも
ひひひ或るもむく凡馬はひひひ馬は馬は
能くも右ひひトも合得るも血流の自能
時役之不しトも此の昔は以て昔人請の語居るひひ
一ヤル馬は千の歳を飼ふべし馬は千の歳を飼ふべし
一ヤル馬は千の歳を飼ふべし馬は千の歳を飼ふべし
一ヤル馬は千の歳を飼ふべし馬は千の歳を飼ふべし
一ヤル馬は千の歳を飼ふべし馬は千の歳を飼ふべし
一ヤル馬は千の歳を飼ふべし馬は千の歳を飼ふべし

有ぬ坊いりしもの元々下す武をゆるげの
半きりて大石に成まらぬれぬの昔人し徳い
心より神のたまひ持もさすい相志人の流
りし相傳ちるる形及なりし心好まらぬ
りし心馬役流るるし侍中し心あのみ可
りし心最上流るるし同吉し心相傳ちるる世有
りし心下りし心忠なりし心昔の心勝れ
るる心名もさすい馬役し者中山九なる者ら
随ふ奇麗めあすなりし心故越中も代
只今し且都に徳入妙解院もなりし心

如形馬教なりし自分し心能宗なりし馬し心色し心
申し心成りて成りし心腹中し心し心付る馬し
し心陽清抄流るるし心親也馬役し者永井
安ちまし心し心方た知りし心し心今店し心成
りし心店し心し心奇麗成りし心只今し心
るる心元し心し心成切なりし心一和心分利九し心
し心し心し心此流分利同者し心若し心傍事し心多
りし心あし心松平之阿宰相標し心し心九し心徳高京
し心城し心討死し心右塔抄し心し心し心傍事し心
見し心し心し心の坊抄し心店し心若し心元し心見し心

此沈活頼母と云ふに右者元九の聖人の勸す
別七日秀の勸は富田信濃と皮書付し徳兵衛の作
し頼兵衛の作は松平新吉郎及右の十右衛門
浮炮の作は辰成親の作なりしは二人の
傳右衛門及古友の作なりしは別白忠兵衛
感すし近代大坂軍記の原一揆に別白父子稱す
長成の作は中將中尉死す原成は保良の
書付し見しは生ぬるしは別白忠兵衛の
事成の作は不知し他衆の作は附ありしは
不心をしは遠坂園月方は別白相良遠江守
は振舞ひの作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
后しは別白方は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
彼方の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
早水忠兵衛の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
尾の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
鶴の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
以も人の證捕候の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
右に別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
進言成程の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
父子の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の

此沈活頼母と云ふに右者元九の聖人の勸す
別七日秀の勸は富田信濃と皮書付し徳兵衛の作
し頼兵衛の作は松平新吉郎及右の十右衛門
浮炮の作は辰成親の作なりしは二人の
傳右衛門及古友の作なりしは別白忠兵衛
感すし近代大坂軍記の原一揆に別白父子稱す
長成の作は中將中尉死す原成は保良の
書付し見しは生ぬるしは別白忠兵衛の
事成の作は不知し他衆の作は附ありしは
不心をしは遠坂園月方は別白相良遠江守
は振舞ひの作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
后しは別白方は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
彼方の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
早水忠兵衛の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
尾の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
鶴の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
以も人の證捕候の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
右に別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
進言成程の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の
父子の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の作は別白忠兵衛の

了りしにけり。如唐者。其言。其夜。一列。一目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。

一 何處。我。其。言。其。夜。一。列。一。目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。

一 書付。下。上。り。文。法。證。據。一。行。一。上。り。何。處。我。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。

一 正月。十日。岩。月。何。處。而。一。片。山。影。一。垂。了。看。其。夜。一。列。一。目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。
其言。其夜。一列。一目。其言。其夜。一列。一目。

一河藏君前中... 堀部弥兵衛金九俸禄三百石... 長矩ノ江戸留
守居タリ其為久剛敵ニシテ武術ヲ好ミ軍道ニ
通シ長鎗ノ藝ヲ能ス古布ノ齡ヲ躡リ嗣子
ナシ妻ハ馬ノ鞍ハ金九ハ馬ノ足ヲ洗フ平生武ヲ
講スルモ此ノコトニ然ル安兵衛武庸ハ本浪人
ニテ叔父某旗本ニ仕ヘタルニ寄食セシカ一日叔父

爭論ノ夏アリテ計果スヘシトテ高田馬場へ出
向フ安兵衛是ヲ聞テ驚馬テ跡ヲシタヒ行ケルカ
敵ハ父子出テ武庸ガ叔父アヘナク討シテ敵
二人立去ントスル処ニ武庸馳付テ二人ノ敵ヲ
子ノ下ニ討留タリ檢使モ叔父ノ仇ト云其勇
ヲシテ義氣ヲ感メ大ニ称美セラレケル曾テ金
九武庸カ駿勇ヲ愛シ知音ト成テ交情莫
逆ノ因ヲナセリ金九武庸ニ語りテ貴殿仕官
ノ望アリヤト問フ武庸曰兼テ仕官ノ志有ト

云へ凡微運ニシテ遂カタシ金丸其時祿三百石斗
ノ者養子ヲ望メリ貴殿他名ヲツクマシキヤ
ト問武庸曰タトヒ養子ニモセヨ偏ニ御荷膽
ヲタノミ奉ル三百石ハ身ニ取テ過分也ト云金丸
心ニ怡ヒ得心ノ上秘ヘキニ非其養父ト云ハ則臣
也ト云武庸當感シテ不肖ノ某ニ俸祿家名
ヲ讓ントノ事實ニ面目ノ至難有存ルニ親類
共ニ申聞セ御返答ヲ申ヘシト云金丸大ニ面色
ヲ変シ以前ノ言語得心ト有ヲ聞其養父ヲ
責セリ然ラハ金丸ヲ以テ貴殿ノ父トセンコトヲ

得ラレス臣カ人品ヲ嫌ルト覺タリ是武人ノ
忍サル処ニト今一言ヲ返サハ其座ヲ避ニシキ
勢ニ其時武庸大ニ屈伏シテ御腹立至極ニ
覺候余リ急卒ニ候シヨリ臣著老ヲ重
スル主意ヲ以テ親類ニ讓リ御請ヲ申サシ
トハ申セシ身ニ取テ幸何事カ是ニシカント
テ即時ニ勸盃メ父子ノ恩義ヲ結ヒケル其後
金丸武庸ヲ迎ヘ取我娘ヲ以之ニ妻セ武庸ニ
業ヲ繼シメ其身ハ致仕メ老ヲ樂メリ然ニ思ハ
サル君主ノ變有テ父子共ニ忠誠ノ義心ヲソ

坊主の御座り候程に御座り候事
上は御座り候事御座り候事
の替り方御座り候事御座り候事
此の老人の御座り候事御座り候事
少く候事御座り候事御座り候事
切候事御座り候事御座り候事
以て御座り候事御座り候事御座り候事
又御座り候事御座り候事御座り候事
長御座り候事御座り候事御座り候事
御座り候事御座り候事御座り候事

此の御座り候事御座り候事御座り候事
然り候事御座り候事御座り候事

一月御座り候事御座り候事御座り候事
何れ候事御座り候事御座り候事
隣に御座り候事御座り候事御座り候事
是の御座り候事御座り候事御座り候事
此の御座り候事御座り候事御座り候事
箇中
以上御座り候事御座り候事御座り候事
存候事御座り候事御座り候事

辞世

弟抗しむるは寝の爰まで

常世にゆくは云九疇

イニ間

光延

一 卯光中秋元但馬守頼朝不中堂又物とよそ同死清
 聲は居の舟信成の辞世は又物肉親とんせ可なり
 一 是思百の均光也の拙老とんせ可なり可なり
 一 右同志は月よしの拙老今度裏つた計入よ大なる
 一 隠居は老と奥住居喜の方之に中一の常
 一 以はるの幸と好は是に不陰短と一言居は
 一 物新の風を信はる押被る一と何老は度満よ

一 中老やよ大なる是斯くは父よいの
 一 物新はあ方の追はる人店よと野女は前
 一 与人は物とらり又は常宛るは投あし
 一 同十郎命其信はつたよ防と老は介働
 一 与人は計果よと上郎及なも服利我振振
 一 或十郎命其信はつたよ防と老は介働
 一 可しとよと神政とらひ吟述ははる
 一 此今よと杜瘦はと見と一蒲
 一 有と刀斗よとねるは及も長刀ら出合
 一 上も子成負よと長刀は投退よと廣明はら

見ゆは金具之紋付極結構もいぬ九は清友
 と好意のしるしに在り者も討控逐成或は酒
 のめりてはるるにきく候も兼に肉持物に自直
 なる其通に何事もなほ何にもまじり候は容
 集りし別着者も早あなを討控する長月八の
 店にそりしり所をさししと野及成討控を返
 いらぬ書ふりしと声によんち一人も出合り者
 なるは門の原家老の少目とてつて路取に
 戸もわくし成社板をぬきあふりしとて
 月あはれもあはれしと見へりしとておくと

見ゆは早水度ちのち名宗を二物と討控し大物音
 も行くいぬを返りしとていす
 一 我はよしの野及成討控する支の全縁とよしの返り
 と大信月入しんとしあまの原岳寺にありて
 思ふもよしの野及成討控する支の全縁とよしの返り
 浦にさし番に取らるる多し答へ何れとよしの返り
 も入ししとていぬを返りしとていす
 との如くは登城に元と見ゆは元成は馬にて
 以通し元二人も同ころりしとて大申場に出
 者も扱しとていぬを返りしとていす

泉岳寺の東に城ありて海は合成溪と云ふ事一
一河成也一河は田軍流と云ふは城を全に老臣の
此者赤穂籠城の形及此より大形一善歩織の地事
不官の事の中一列の如し地事者より善歩織の如
上野介及討方泉岳寺の事上列の目八情一近者
一河成也一河は田軍流と云ふは城を全に老臣の
此者赤穂籠城の形及此より大形一善歩織の地事
不官の事の中一列の如し地事者より善歩織の如
上野介及討方泉岳寺の事上列の目八情一近者
一河成也一河は田軍流と云ふは城を全に老臣の
此者赤穂籠城の形及此より大形一善歩織の地事
不官の事の中一列の如し地事者より善歩織の如
上野介及討方泉岳寺の事上列の目八情一近者

泉岳寺大門番成村内院物也何れ説心酒持事
は心酒持事は掛以目示は城上舟着事老持事
も奴持事也事是入階殺下口酒持事
一河成也一河は田軍流と云ふは城を全に老臣の
此者赤穂籠城の形及此より大形一善歩織の地事
不官の事の中一列の如し地事者より善歩織の如
上野介及討方泉岳寺の事上列の目八情一近者
一河成也一河は田軍流と云ふは城を全に老臣の
此者赤穂籠城の形及此より大形一善歩織の地事
不官の事の中一列の如し地事者より善歩織の如
上野介及討方泉岳寺の事上列の目八情一近者
一河成也一河は田軍流と云ふは城を全に老臣の
此者赤穂籠城の形及此より大形一善歩織の地事
不官の事の中一列の如し地事者より善歩織の如
上野介及討方泉岳寺の事上列の目八情一近者

テ可然旨ヲ命セラル安井申テ曰高家ノ御勤役ニテ萬度
 アナタヨリノ御差圖ニ候得者アナタノ音回ニ及ニキキ由ニテ其
 沙汰空止ニケルト也

一月花助に以銀一圓五匁の髮刃を結して残る旅中其
 度髮の長から二寸も居下し我々の常々結
 付ざる者結せ給ふ心持ありま物とも見えず
 以得ぬと増ふとあらはしりおとむらむと
 申し又ふりて何と結せ給ふ

一 堀部海軍少将の海軍中將大石と
 梅本同の七十八形威の常居故弟女代勤居
 忠今海軍振上將大石の七十八形威用人相勤掛

居下し今月若一列に加志成りる右々人同志
 としは物に今別業は代り子掛居りて道理
 二時下しははるる中隠し居りて
 以銀一圓五匁の古もも能ふ人居るといふ
 申しははるる右は屋浦も居るといふ
 所ははるるははるる後居りて在城
 と申しははるる何れは飲む人
 若手時より心をはたかす初ら致主取り
 斗をいへる馬持に
 度勤めは故弟女代勤居りて勤居り

勤み親又又更大身より家形事より勤み親女
 多事の暇にきし親一而事今より勤み親女
 以社心勤み親一而事今より勤み親女
 店より又之今より一列より勤み親女
 諸道具泉岳寺に拂お成し事今より勤み親女
 中より勤み親女より勤み親女
 此より勤み親女より勤み親女
 自心より勤み親女より勤み親女
 侍より勤み親女より勤み親女
 之後より勤み親女より勤み親女

店より泉岳寺に拂お成し事今より勤み親女
 衣類より勤み親女より勤み親女
 本より勤み親女より勤み親女
 中より勤み親女より勤み親女
 才覚より勤み親女より勤み親女
 所成より勤み親女より勤み親女
 捨捨より勤み親女より勤み親女
 又より勤み親女より勤み親女
 公女より勤み親女より勤み親女
 何方より勤み親女より勤み親女

思ふ緒は因花物に寄れども付く日花に或枚調具は
し高麗物とすを頼らぬ空或枚調具に月を扱は
右に思の緒に寄らぬものもひ違ひに取らぬものもひ
或はマヌアとのしにのし書は言はじ調に何卒同物
書貴い物とすは神に扱ひんともあるも今好む
能く書せしものも是も古くはしめしと
右にいにたてし話しにふし
一

一 助右衛門はしは月浦の事は一の白岩塔たつて
句はしめしものも是も古くはしめしと
以花を調具真加のりものも是も古くはしめしと
湯はしめしものを頼らぬものもひ違ひに取らぬものもひ
和はしめしものを頼らぬものもひ違ひに取らぬものもひ
毎度と常柄ものも是も古くはしめしと
一 襟肩衣に緋の水衣も一早くも着中着をこるも裏

付はしめしものを頼らぬものもひ違ひに取らぬものもひ
衣も好むも是源のたすも調に取らぬものもひ
何とものも是源のたすも調に取らぬものもひ
形も好むも是源のたすも調に取らぬものもひ
以物好むも裏の取合と能くはしめしと
調に取らぬものも是源のたすも調に取らぬものもひ

くく流行半夜あめものゝらんと七ノ下ノ夜に
 三井柳以眼ちくく代古信店一自細川刑部及
 後之伯やうとつし着申付く江ノ上者ら八代
 多事之節系於人以出例宗分宗和と一者其花
 六高徳文もち店に刑部旗も羽織名はの紙を
 以後の旗揚り〜次下も其羽織誰をよ
 とつし言はれ宗分宗和と一宗分もつし
 羽織とて江戸に旗印立馬のどどからぬは
 時より一〜とつしとつしとつしとつし
 江戸の羽織店にたつしとつしとつしとつし

長くはききせの道とつし言はれ相江にたつし何代は店に
 やつしとつしとつしとつしとつしとつしとつしとつし
 とつしとつしとつしとつしとつしとつしとつしとつし
 六高是言聞の聞とつしとつしとつしとつしとつしとつし
 秋馬よらとつしとつしとつしとつしとつしとつしとつし
 才和とつしとつしとつしとつしとつしとつしとつしとつし
 六高は忠神とつしとつしとつしとつしとつしとつしとつし
 二六時中誠申軍法紙の常一紙る言心成申
 侍も成まのつしとつしとつしとつしとつしとつしとつしとつし
 能とつしとつしとつしとつしとつしとつしとつしとつし

私と古人の近以迷惑の存るは、
 二入のにおぬらうもた存なるは、
 一は、
 二は、
 三は、
 四は、
 五は、
 六は、
 七は、
 八は、
 九は、
 十は、

形を存するは、
 時、
 頭、
 存、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

おぼしむるに物も今が一合時更と
きまむとくむに能く致す事か
海もきくもむとん列を感入ある事か

一 志は是つらむに傳右車之足見
しるも為るむらぬ大之所居り
致奇を揚た服へ出む事有り又付用む
道筋留りい大方た通る官所通
八官所と後之玉所としむる事か
はらむも海居り果たると海終通る
中しむる玉所月海道億と下通る

相才子扱以家とし度は招り及し
にけし所言も技指子扱きま
知人らそはけき名候し初る事
とくしむるに人家が滅た居る
治民隨ふ能はは内通り候事
浪人ら所を居りしを服し療治
江戸は居りし療治は是ら志
しむる事かむらむる事か
とらむる事か又すむる事か
したる事か其後之事か

畿内形傳の京大坂下は毛の尻の菊をけし信の
通のりふけの書状を也其の少海調とありて列
巻末の我々の信号と稱し其時分取給十七人
宛し別進十方のれりるを信号とすとの多
く夜文に書ゆ一月も神の心をなすてあはれ
城也い出の書り期後流の城同各年八にけ一討
屋号の坊とすて古まをて功の後形とす八
も乃信居所城を存河大をく存るを信流の
波持と書たりといふ書りて信号とす八に今
度し一列押はるる書り我々の行の徳を信
固也といふあり候平八に信の不苦半と波延りて
道徳方の中不候梅とくたは心付るすけ同
も是の心とすりの中

一月海道徳見年一の京於寺井 玄溪公の書中
一月の云傳の市紙振んせりといふ

一紙中も原姓は用半力頼入の附物と堀月信とありとすに候
先達の内院助書状に下紙に村井深屋とありて附書ありて
宛中傳せらるる心付候とするも一人前紙中も標印深屋
とあり候とありて其節の物ありて入る候とあり
標印のまに下紙に抄者信とありて元とありて下紙中も標印深屋
とあり候とありて其節の物ありて入る候とあり
去年其よりあり候方、七月の信、いふとあり候とありて
後山のあり候とあり候とあり候とあり候とあり候とあり候とあり候
とあり候とあり候とあり候とあり候とあり候とあり候とあり候とあり候
二月二日にいふ細入の死後、年、信あり候とあり候とあり候とあり候

ありて讀むべき事

一 或時平野九原の葦葉繞るに白く成りて情思の葉
度々しし哉そめりて葦葉のひらひらと當村園の庭に
葉めりしははらばらけりて是れははらけりては
成りて如何にせしむ成りてははらけりては
入持るははらけりて葦葉のひらひらと當村園の
はらけりてははらけりてははらけりては
是れははらけりて葦葉のひらひらと當村園の
悦びしは是れははらけりてははらけりては
一篇より成りてははらけりてははらけりては

もかゝる右に通る夜に葉酒とて下中へははらけり
成りてははらけりてははらけりては

一 物有るははらけりてははらけりてははらけりては
はらけりてははらけりてははらけりてははらけりては
是夜に骨の葉ははらけりてははらけりてははらけりては
精進の葉ははらけりてははらけりてははらけりては
と右に通るははらけりてははらけりてははらけりては
左に下りてははらけりてははらけりてははらけりては
はらけりてははらけりてははらけりてははらけりては
道に下りてははらけりてははらけりてははらけりては

一 或時潮田又と進りて其の親の月持物爲る程に
Pいほ松平伴孫と指し居りし池田主水に由りて
取及よいぬに家の上月名宗代此流と居りしやと尋ね
Pいほふも上月十吉とPして福吉と又及城代は
之徳名宗代此城守親肥後守右衛門右千吉と末
子上月十吉とPして青次は右Pい私親と別るは
國許し尾浦と近可と能賞居りし右千吉とと病死
は宗代の子孫に代り居りし番頭Pい舟並池田主水及
半孫の母と之母の母の家公女前とPい言城守
初り入國し別れ船中と主水及は原知と下津井あり
舟に音信使者と来りて方々し小姓及城代礼を
及進言Pい其後月持助也Pい聞は相々委細よく
以覺るぬ主水と私為伯父と宗代今此伴賀は流
Pいし伊豆Pい守は城守Pいし上月十吉と末上月十吉と
Pい海人系に居りし此老娘成主水及は親父出相
及は主水の母とPいし相々委細よく其
之右衛門娘とPいし相々祖母とPいし保け持
PいしとPいし家Pいし右千吉居りし時代は皆
也賞居りし私親と別るはPいし宗代千吉の子孫
公女前Pいし船中と近可と能賞居りし右千吉は

陽の毒交言作羅の市海に相松平女流と稱す平姓名字
と考すとい物考交内縁も多しとい九弟の及と考す
續の事いふと爲りしに我もいふ也新九弟の平姓に
遠江も同名に記す平姓名字傳事たるは是れ
安藤も伝に記す九弟の續とすも考
し及此言の相序に書如右池田主水祖父出陣と
す池田勝公の嫡子紀伊守伝とす勝入公は父子
長久の合戦に討死すとい紀伊守伝は子とす
以初考すに此男は五馬輝政公の弟成徳といはる
只今に傳傳も伝に先祖傳に嫡子公勝と傳出陣と
すといふ方ぬ右に最老に居るに池田も二代と
初の出陣に右に筋目有し仁右蜂須賀家傳と
以元年に如右に平河波守伝に考す妹年紀支河傳
の姉解院様と相傳年といふ支河真源院様といはる
河波守伝といはる元年其妹出陣傳方の如右
し由然城公に代り下津井に水船城といはる
半傳傳に其状に傳した傳といはる代り
心算とい及此言に我も先祖池田家、居るは能
事傳の内に院傳に傳るは傳といはる傳とい
相傳と

一 内院御戎車に大石頼母及び既なるものとして頼母跡
ハ次以降に在る唯今以徳中成后よりとて頼母守
奥方 本源院御 死去ノ刻為に名代頼母存守に依り
いれんと右より成物語の本

一 同名年ハ使者に授けし序に我所宅に喜言出りしを
今期友清及其介以劍亂推し多し守に十七人屍
百一以救免ししり刀服利損居りしに河石持
為拜願の事とすし河石に人指し其以用意有
し指し守に成り成事しに我語に刀包を付合
二 及位力礼舟道具成り号に今味は色に指しに我

中は頼母に人指し小身なるものなるに
刀包を指ししりしに付しるも世に
以用し指し河石に信同祖に人指し頼母氏家年
若國名又都の傳傳長身し事居りしに人指し
指し成指し以用し之に就中傳傳長身し常道
好きしに守に能き道具を持居りしに人指し
人指し守に可なりしに守に能き道具を持居りしに
いれんと同に守に能き道具を持居りしに
之指し時節あくし守に能き道具を持居りしに
ト中にも相りしに守に能き道具を持居りしに

折節正利、刀為梅、号月、打、成、方、居、下、取、右、
出、成、平、八、十、少、の、幸、如、此、出、来、し、も、二、枚、し、れ、も、ま、
是、内、抗、助、二、正、方、皮、丹、似、中、心、ノ、象、眼、有、し、い、と、く
以、自、分、に、お、し、ら、し、け、し、成、成、に、持、た、れ、し、出、来、ま、し、
如、括、し、時、節、指、し、内、丸、物、杯、に、力、辨、領、心、の、目、也、
神、武、士、の、切、意、守、り、し、海、心、と、い、ふ、平、公、
因、言、も、懐、中、に、其、後、横、山、又、節、支、り、し、右、の、通、平、八
平、公、と、一、産、為、取、能、し、と、節、中、に、実、り、昔、の
事、成、因、の、海、心、の、長、谷、川、乃、仁、在、り、初、に、武、功、を、
仁、ら、在、り、山、城、也、与、力、に、成、る、處、を、し、し、取、り、

妙、解、院、極、以、代、八、口、石、と、い、ふ、右、に、同、見、し、は、時、分、折、節
系、節、に、以、加、入、る、事、も、節、前、の、居、り、し、は、右、に、在、り、
如、形、花、男、と、い、成、以、言、し、れ、し、也、今、在、り、し、侍、り、し、
し、や、と、い、ひ、時、行、り、し、の、男、振、り、し、俾、り、し、
は、い、り、し、包、し、者、の、才、に、乃、為、し、定、る、能、し、
一、方、に、在、り、し、し、に、以、織、練、し、し、石、一、り、し、以、約、束
し、物、の、先、十、石、に、力、辨、領、心、と、い、ふ、早、途、に、不、増、也、書
出、成、乃、裁、正、に、其、上、に、活、地、六、十、挺、に、成、り、し、秘、本、如、か、し
時、分、に、能、覚、居、り、し、秘、本、親、と、い、別、る、也、
乃、先、肉、の、也、又、し、ら、子、息、之、言、也、し、し、母、後、と、い、し、每、方、に

折し事い後成覚存し或時之盛に金馬の事い河
千石し神さ今かり長柄多身なり見しは
長柄十中斗と見し其外は長柄の外は
次山といしは結いなり我代も若し能は居
し自物一時渡入元下系古連号なりし時持
とて更し流しきり長柄入りし時
所用は持流し指し持し持多梅
大小身を指すは自物し付入しきり武
意し御ししは使え凡定致ししかりし
らに今真源院標代り初るに國の

馬の事い後成覚存し或時之盛に金馬の事い河
に今枝柄入し事なりし時之盛に用し持し
と事い其時持しは馬と事い
の向し星多馬成切かり時分見しは
刀服利馬を武士事しは好しは
心持しは持分取賣し指し成しは
もと亡父事しは毎度なりし右に
もかりし人其時分は家歴し古
に在りしは事いしは

二月二日香代三年早連事いしは

網利公

女子八人
与二郎様
貞享十四年
卯十月十日曾於
江戸御誕生
御母伊津姫様

内記様
元禄三年
己十月八日
御誕生
右西同腹

内記様より伝はる所ありて此後諸君に伝へて
ては申す所ありて此後諸君に伝へて
の天附の老翁や角と伝へては申す所ありて
延年の事なり大なりや成し給ふ事有り初
年姑の礼に流登 城に傳へて解の事あり
公女出入伝 門城の事ありて此後諸君に
貞村女九馬と 一老翁の傳へたる事あり 門城の事
御上の事ありて遠くは伝へたる事ありて此後諸君に
傳へたる事ありて此後諸君に伝へては申す所あり
笑へたる事ありて此後諸君に伝へては申す所あり

とて留め置たる事あり 門城の事ありて此後諸君に
この事ありて成りたる事ありて此後諸君に伝へては申す所あり
次は同い前も同くありて此後諸君に伝へては申す所あり
此中と感へたる事あり 右の事ありて此後諸君に伝へては申す所あり
以後は公女や野田の事ありて此後諸君に伝へては申す所あり
此中に熱狂する事ありて此後諸君に伝へては申す所あり
の事ありて此後諸君に伝へては申す所あり
以侍申す事ありて此後諸君に伝へては申す所あり
二月一日一夜より同い事ありて此後諸君に伝へては申す所あり
三人中申す事ありて此後諸君に伝へては申す所あり

中戸る耳弁より成徳白ら春居らるる門花物
傳古事及是のこころに能く美いと一と十部全
其名は傳を友とて指すとすも其十部全の指
物より給ふ門花物とすれどもこの言
くは存の如く意のこころに折言は是非とす
一と指すとす春は下り時也古事又是れと
以て是れは傳とす又折言は其に指物
一と指すとす美いとす又少く指物
是非は一とすとあり給ふ門花物とす十部
全の今一りのませとすも其指物一と指

は又一とす先列の如く傳は指物一と指
るは一とすは傳とす門花物一と指
十部全の如く傳は指物一と指は春は傳と
友は類の如く傳は指物一と指は傳とす
とす折言は傳は指物一と指は傳とす
いふは傳は指物一と指は傳とすは傳とす
問は傳は後心付く右に伝子服乞ふるに有
いふ坊主抄とすは傳は傳とすは傳とす
は傳は傳とすは傳とすは傳とすは傳とす
何れは傳とすは傳とすは傳とすは傳とす

下武招とすは我軍能中後因道中不の指すとい
くも後舟等切腹心付り其月も能老らる
月我物又の者以元朝の遠馬といふ伊丹也招とす
多の事一は月中津祝日多二月初日日光院
宗常極く云然し所祝日あ十七人元何は
功老能は舟といふ二月初日といふ等一は伊丹
越為すといふ唯今海ありす事一は入津意
存ん事

一二月一日の夜四時より五時迄は我軍皆一
諸君の萬長瀬助進出あり唯今上河あり

如此しと法美の明朝の遠馬は元朝の者も
明朝の宗常元持事といはる我軍も入不能指移
い一は元朝といふことありはあねといふは
一は元朝といふことありはあねといふは
あせりといふことありはあねといふは
元朝の助といふことありはあねといふは
といふことありはあねといふは
定諾する傳書といふことありはあねといふは
といふことありはあねといふは
といふことありはあねといふは
といふことありはあねといふは

助言の六石遊在り何れも流るるに遊むる地は
下は以て服乞ふ事なきに成り月をくくると以て善光
見たりと云はれし所は法之塚所本掘所也涌
物と云ふは此の地は地味は以て支るべき地奥田
強又潮田又魚の地なりと云ふ事即ち地又魚
は此の地は地味は以て支るべき地奥田
先明日の内務物に於ては後成おれりといふ事
此の地は地味は以て支るべき地奥田
是れ子夜に文に於て強又及掘地或は此の地は地味
以て支るべき地奥田

一 聖旨の朝花成出り何れも流るるに遊むる地は
去物成り来りぬ我も何れも流るるに遊むる地は
大守様は此の地は地味は以て支るべき地奥田
らん何れも流るるに遊むる地は地味は以て支るべき地奥田
此の地は地味は以て支るべき地奥田
其の地は地味は以て支るべき地奥田
一 聖旨の朝花成出り何れも流るるに遊むる地は
去物成り来りぬ我も何れも流るるに遊むる地は
大守様は此の地は地味は以て支るべき地奥田
らん何れも流るるに遊むる地は地味は以て支るべき地奥田
此の地は地味は以て支るべき地奥田
其の地は地味は以て支るべき地奥田
一 聖旨の朝花成出り何れも流るるに遊むる地は
去物成り来りぬ我も何れも流るるに遊むる地は
大守様は此の地は地味は以て支るべき地奥田
らん何れも流るるに遊むる地は地味は以て支るべき地奥田
此の地は地味は以て支るべき地奥田
其の地は地味は以て支るべき地奥田

此の城は平河の城なりと云ふ事
其の城の形は平河の城に似たり
其の城の築は平河の城に似たり
其の城の守は平河の城に似たり
其の城の名は平河の城に似たり
其の城の地は平河の城に似たり
其の城の山は平河の城に似たり
其の城の川は平河の城に似たり
其の城の池は平河の城に似たり
其の城の谷は平河の城に似たり
其の城の原は平河の城に似たり
其の城の野は平河の城に似たり
其の城の畠は平河の城に似たり
其の城の田は平河の城に似たり
其の城の園は平河の城に似たり
其の城の池は平河の城に似たり
其の城の谷は平河の城に似たり
其の城の原は平河の城に似たり
其の城の野は平河の城に似たり
其の城の畠は平河の城に似たり
其の城の田は平河の城に似たり
其の城の園は平河の城に似たり

此の城は平河の城なりと云ふ事
其の城の形は平河の城に似たり
其の城の築は平河の城に似たり
其の城の守は平河の城に似たり
其の城の名は平河の城に似たり
其の城の地は平河の城に似たり
其の城の山は平河の城に似たり
其の城の川は平河の城に似たり
其の城の池は平河の城に似たり
其の城の谷は平河の城に似たり
其の城の原は平河の城に似たり
其の城の野は平河の城に似たり
其の城の畠は平河の城に似たり
其の城の田は平河の城に似たり
其の城の園は平河の城に似たり
其の城の池は平河の城に似たり
其の城の谷は平河の城に似たり
其の城の原は平河の城に似たり
其の城の野は平河の城に似たり
其の城の畠は平河の城に似たり
其の城の田は平河の城に似たり
其の城の園は平河の城に似たり

北毛郡下廣町通車に我志近及好の舟月より丁
通りし東の増と幸代門前と堀と部と清以使共の
幸の庭と高の成程と使有るを以用する
幸のとて之別史より新橋と出するは薩田軍助
進付るとは被因道と親とすけり。ははは三月申
以前とて宗通り松平古伝と程と番前屋と所
より精誠あり。身法入をせ之ちり好のり
又島城入をせ。月悪はつし番人たは馬城於て居
裏に玄関より通るは何茂麻之下有用と書と
一舟裏に玄関と起りては成程は同名は左の如

麻之下をき着用はは海舟右衛門抄にもありは
月悪はつしとに申るは縁をた續あり。又舟是る
一通り武蔵の月と馬は生れとる。宗の城は
法会法心代勵とある大神の海とる。徳の由時馬
けき時節を種古成業より人掛りて又成
師とあり。幸の武蔵の舟の
幸の心成りしと見よ。幸の善軍の舟の
徳の古の節と又節の舟の舟の舟の武蔵
の名高の武士の昔の徳の舟の舟の舟の相
向の舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟の

振成心をさし度事

一 次の間成の事として何代科理成法に常の
少早出の事と今現代の事其法は
不審の事と指扣の事其法は
の形也との事と指子何の事と科理
給の事と見合との事と
見合の事と指法との事と
形の上使の事と麻との事と
重の事と神法との事と
神法の事と

きし事

一 冒朝花出店中の内花助の事と傳信の事と花
の事と入の事と
身自の事と
所着の事と

一 上使の事と香の事と水内記の事と
の事と
の事と

後野内匠頭候 勅渡門池乞し所用事 仰付事
其上時合柄 殿中不悻仕形身門仕事

後少物隨類多中一官一六同しけ後外
見上元と云右極子政具見し其後江村
節并出言遠河能之何者其花長花中
九極の力一とも言はしきと云半

一 豫田軍の長瀬助進家とすは心女座有るは
右の極成程とすと云ふはに柄極の書付同
片流下出しの心は極の心と云ふは極人女の
一 何成す法以潤七葉落しつる女座と流の側
是の心と云ふははらま

一 何成すは今日別は馳を二も半一と云ふ
煙草の束は多しと云ふは極の極は極と云
坊主の付の侍中不及し切の坊主と云
残るは極と好むたる半一りつる中と云
不しと云

一 同名平八下流は行到書遠屋の極流と云ふ
為しと云ふは月付前何れを不告は料紙に云
と不及は月見の心は極と云ふは極の極
為持堀寺僧の極は云は月付流の何れも不告は
何れも調ふは極と云ふは料紙魂と云ふは調ふ
は極は月見の物何れも其時内流物何れも

臣下板に心成り附き御事なすに付は保皆を何れ
調へ下候に事なすに付は七節に御事なすに付は
我も内務物側号唯今七節に御事なすに付は
何れも花若との候に付は事なすに付は
候に御事なすに付は及に御事なすに付は
何れ成り合に御事なすに付は地を疑ふは合強に
いと御事なすに付は又一年に御事なすに付は
に御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は
に御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は
に御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は

八幡城に通りぬる御事なすに付は御事なすに付は
今日に御事なすに付は天宮に御事なすに付は御事なすに付は
方々通りぬる御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は
も御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は
に御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は
身に御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は

一 御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は
一 御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は
一 御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は
一 御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は

一 若田邊に御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は御事なすに付は

一 以てりし... 寺... 一
一 片長源... 一
一 残道... 一
一 者... 一
一 坊... 一

一 同瀬... 一
一 以... 一
一 庵... 一
一 正... 一

一 小野寺... 一
一 如... 一
一 今... 一
一 一... 一
一 同... 一
一 一... 一

一 改訂子所為のけり別々思ふ御多し美事御母
 一 兄弟を半心分りてしるべき御事
 一 改訂子所為のけり別々思ふ御多し美事御母
 一 兄弟を半心分りてしるべき御事
 一 改訂子所為のけり別々思ふ御多し美事御母
 一 兄弟を半心分りてしるべき御事

近松勘六谷
 中長福寺
 書付給候一卷
 張并置候

一 富森初右衛門の喉今以聞如十九巻指月龍印の換
 一 改訂子所為のけり別々思ふ御多し美事御母
 一 兄弟を半心分りてしるべき御事
 一 改訂子所為のけり別々思ふ御多し美事御母
 一 兄弟を半心分りてしるべき御事

春帆獨嘖

富森助左衛門

江戸の姉の志白なる

先之一人のつらみりよの目成

後の福海もかあじゆ

一卷法並いある具は其後助左衛門且那寺漢字長延る
波多訪るるよの信牌もくちて我名思望し信牌
全彩の書付もくち日付のすきと信とす物古事
なまの月前にも訪るはとくち如北洞ももよと
長延るれ住寺助左衛門の金杯もはを助左衛門好生も月
母依并来比可も小出も入代治も勤るもよも浪人

江戸の事なるものも江戸の助左衛門の長長を印しよとくち
すよの妻細書付もよの事

一 潮田又もよも洋世又も通下も表紙書付もよも
江戸の防州も西郷も小糸村も同も和子も川中陣中も
ねも小糸村も印も通下も和子も小糸村も又も有
もは枝もし着もいも通下も其月也め使も
下もよも好もよも

武士は道も平一もら
也いよぬも死も出も旅路も
潮田

一 早水友左の市原の家も江戸の早水助左衛門も又も列も

世に成覚居下には眼をく列古所の光の寺を
助清輝を彼寺に引入居下に成覚居下より片
然中光の寺とすもこれに好らぬ也とすは故人
らに言はれし成覚具の形及居下にとすはこれに
辞世成書候作

地水火風空日月より出するもの

一、いへしとて瑞々草の住居

一 赤垣源流は此方知れ小瘡出来致強硬に此に為る
中道外科危病隠言の候今の上意ら切障
は心に候中にも好らぬ古尼相模書指申問敷清

一 一者、以通と云はれしは得たり相模書指今枝
流る事一と老に取次右勤居下に私も遊者と片列
下通の心也と云ふと心懐の今枝清浄
即列一とす

一 奥田強更は内にては下に通一類の心也と云ふ
と心は此の心也と云ふ相模書指申問敷清
不好は中法也との心やとすは心は此の心也
私も強更は心也と云ふ心は此の心也
此は心友の心也と云ふ心は此の心也
此は心友の心也と云ふ心は此の心也
此は心友の心也と云ふ心は此の心也

若し元十郎の政初として扱ひしは、徳古い、
不苦の只前成り付け付たるが能く有し、
後止し其政也、
元も有し、
内、
切腹、
常、
以、

一 夫、

い、
妻、
与、
伯、
右、
と、

一 大石、

と云ふ所は、
具に、
公の平又子一人、
知人成具、

一 右十七人、
古記、
付、

一 右通、
首尾、

一 十七人、
水石、
以、

一 十七人、
以、
守、
感、

遠方へ行く糸とて人知れぬ何國に果しと云ふ
とて又片に仕合らば高深いものなり

一 小野寺十月着た具足に指らりら布此の面

巾形とどんと紋成角色津魚指し華しく

濁らさざりし七の持か重く有し大男といふ

中へ大見と申し力も強くきしものなり

一 何代不残布細くしつら内へ濁成入るる子継

衣類を結して流し衣の札付店なり

一 甲頭形大巾頭巾に指ら成黒草とて包白草と

綴取朝付し月夜物に表に良雄と名乗る

息の流や大いし紅の志とてきしなり

一 念成入改の指ししもの夫とて名をくし

しし高深の中に見るにしし委あ見もの

多し鼻紙成守其書も指成りしし

後身及んせし指し其指に合はるとし

ら中のしし入るに城見し何代死骨成

し前中しししもの地成入るる指しし

も吟味ら不測法成しし波尾成と肉成明子

不は色し行たししす也し今し浴衣十七

行水しるるししなり

一 右道に當りて夜食頂戴はは食字を中解致湯
漬粥に接し九つに道所是物もも経夜寝れ
不才力もあけし事

一 二月六日より門前浦に侍申不残は右出所也
此御座の今度此形は何義背成抄に此以を
為し居り者も此書も繁しく同前より此
扱十七人ノ勇士也此中此等も也
此名に及入十日程有し此等此等可
上し此中此等も此等此等此等
據規條以來此等此等此等切腹此等此等

此等此等他此等此等此等此等此等
此等此等此等此等此等此等此等
此等此等此等此等此等此等此等
此等此等此等此等此等此等此等
此等此等此等此等此等此等此等
此等此等此等此等此等此等此等
此等此等此等此等此等此等此等
此等此等此等此等此等此等此等
此等此等此等此等此等此等此等
此等此等此等此等此等此等此等

一 右に通以言此等此等此等此等此等
切腹此等此等此等此等此等此等
見し事も此等此等此等此等此等
達上野及及尾上押込此等此等此等
此等此等此等此等此等此等此等

一 同下着... 出... 事

目の本村名... 武...
親... 四十六人

東
二月九日

堀内傳次郎

堀内傳次郎

系

一 林吉物村井源... 合... 通... 夜...
... 誤... 夜...

堀内傳次郎... 如新調

堀内傳次郎... 随... 通... 夜...

右... 通... 差...

一 未... 月... 志... 事... 上... 通... 夜...
... 堀内傳次郎... 堀内傳次郎...
... 堀内傳次郎... 堀内傳次郎...

一 堀内傳次郎... 堀内傳次郎...
... 堀内傳次郎... 堀内傳次郎...

一 未九月廿六日、以人言、江ノ人、其立、以舟、泉岳寺、波
余、訪、い、金子、城、香、真、波、持、住、寺、下、上、合、細、川、鐵、馬
内、境、内、信、を、つ、と、上、老、い、浅、野、内、通、江、船、家、来、出、江
い、節、附、ま、ら、十七、人、い、航、と、い、女、語、い、唯、今、い、馬
地、波、波、是、い、老、人、い、清、と、又、江、合、舟、紙、半、不、定、い
い、舟、鴨、乞、波、氣、訪、い、墓、所、上、葉、茂、波、住、伊、丹、い、江
い、と、い、い、寺、信、と、い、舟、上、同、い、い、寺、持、出、舟、舟、
一 擲、以、目、い、持、夫、い、中、州、煩、舟、い、別、墓、所、上、葉、茂、波、
力、い、い、と、い、出家、三人、出、舟、上、一人、い、合、の、淺、波、持、末
い、い、い、水、桶、香、炉、托、持、米、持、い、い、墓、い、舟、堂、い、前、九、

い、高、寺、い、長、矩、云、い、以、墓、い、舟、切、下、早、六、人、い、墓
一 所、有、之、垣、波、結、入、い、浪、と、い、波、い、舟、い、舟、東、舟、
節、麻、舟、下、着、用、い、侍、一人、い、葉、茂、波、住、い、舟、若、い、
舟、い、夜、と、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、
い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、
一 道、中、荒、井、波、舟、い、舟、勤、い、舟、同、十月、十日、い、舟、舟、
着、波、い、聖、日、寺、井、言、溪、い、舟、聞、い、舟、白、砂、瓶、い、舟、
給、い、早、建、初、い、波、對、舟、い、舟、有、い、舟、何、い、舟、い、舟、
い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、い、舟、
井、岡、屋、長、尺、舟、い、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、

後方初病と長年の積重昨夜とせしむる
いふにこれ其遺言也と云ふに子息玄達其在
宿の傍に記しに於て其の心尚も子息の少杯
を中

一玄達其の於ては内海通徳毛十七人軍存生
の月以て其の成人に成る後通徳方より誠心物
以原切に及於死者亦存の内死物存の内種月
十八日同其日當二月二日之通安洞其の
悲其の十月之人二月之日と云ふに後安洞より誠
死後其の傳其の及以系看に別紙に記すと云ふ

一誠心越中守極に結構生涯實を以ては他茂形
及不に純心を誠心冥加に極筆紙に述りて
武運叶に後世に示すといふに誠心物に
後乃輝れ式と云ふに其の傳其の及以系看に別紙に記すと云ふ
其の傳其の及以系看に別紙に記すと云ふ
其の傳其の及以系看に別紙に記すと云ふ

一学人玄達其の於ては其の通今月十日に夜同志相傳其の良
上野及及屋敷に推入に及て其の通今月十日に夜同志相傳其の良
二討於如言上野及及屋敷に推入に及て其の通今月十日に夜同志相傳其の良
亡君に即前其の去年以来に散幣憤に及て其の通今月十日に夜同志相傳其の良
其の傳其の及以系看に別紙に記すと云ふ

量い同名を建てて登一は建は凡入か此才川九の所
玄達と毒約の才他才一は建は凡入か此才川九の所
以建は成か毒約の才他才一は建は凡入か此才川九の所
及び地色を滅心真加極強毒約の才他才一は建は凡入か此才川九の所
正伊丹かと相持歩兵の修し建は凡入か此才川九の所
不才有るは石方た好は建は凡入か此才川九の所

十二月廿四日

小野寺十内判
原 地若島判
大石内務判

寺井玄信

追言の書付し此才同志の若くは春届し内若くは建は凡入か此才川九の所
残の若くは建は凡入か此才川九の所
若くは建は凡入か此才川九の所
又十は白く候は建は凡入か此才川九の所
不友是也

追言一札の才他才一は建は凡入か此才川九の所
此書付建は凡入か此才川九の所

又下は此才同志の若くは春届し内若くは建は凡入か此才川九の所
西の才他才一は建は凡入か此才川九の所

一 右の通書付し此才同志の若くは春届し内若くは建は凡入か此才川九の所
以建は成か毒約の才他才一は建は凡入か此才川九の所
不才有るは石方た好は建は凡入か此才川九の所
六の書付し此才同志の若くは春届し内若くは建は凡入か此才川九の所
是の感懐と存は建は凡入か此才川九の所
万葉を建は凡入か此才川九の所

一筆波布止の才他才一は建は凡入か此才川九の所
玄達と毒約の才他才一は建は凡入か此才川九の所
初同志の才他才一は建は凡入か此才川九の所
以志成破は建は凡入か此才川九の所
不才有るは石方た好は建は凡入か此才川九の所
却ら道は建は凡入か此才川九の所

予のいふ所を何處にても成る所なり。其の世に於て毀譽一方の
年月一才志成徳の如く其の世に於て其の世に於て其の世に於て
才一才志成徳の如く其の世に於て其の世に於て其の世に於て
奥野崎の如く其の世に於て其の世に於て其の世に於て其の世に於て
下進振是の如く其の世に於て其の世に於て其の世に於て其の世に於て
向後可く其の世に於て其の世に於て其の世に於て其の世に於て

八月廿日

大石内務物

寺井玄溪記
上

一 玄溪宅の東に柳馬場通押少路の西側より内近路
相動店より往東に往店より江戸徳方通より
取らぬ内海道徳江の往店より一里中より宿より
半の通合より江戸の如く其の世に於て其の世に於て

何處に於て其の世に於て其の世に於て其の世に於て

一 右書状の月日抄考の往東に往店より江戸徳方通より
以後誠意の月日抄考の往東に往店より江戸徳方通より
神の威徳流しより右書西の月日抄考の往東に往店より
其の世に於て其の世に於て其の世に於て其の世に於て
志願より一札を玄溪父子に於て其の世に於て其の世に於て
且又巻物に玄溪父子の往東に往店より江戸徳方通より
則玄達写の如く其の世に於て其の世に於て其の世に於て
一 玄溪父子の往東に往店より江戸徳方通より
其の世に於て其の世に於て其の世に於て其の世に於て

一 伏見西智所筋浪所二丁目行長澤古馬妻子女
清毛と居る所約半の書に才と云ふは元不近老
とて出づるは後室より出づるは清毛と
兼て兄女とあり候水及よは世有以の相烟后
しは川石を以目し新立候と遠方より来るは
暫し待るとしり候も及存と申し通を候候
存は右に候候より申す候相意候候持持と
右に名波夫と云ふ

一 淀川中ノ上ノ八幡山大西坊の爲米の申候後
ありしは結構成産候と申すは是れ構候間し

有之形首迄と云ふは解申し候と云ふは此迄と云ふ
大西坊は亦歳余り申すは是れ大西坊の内務物家
筋ノと云ふ申すは是れ筋ノ内務物持候今大西坊
ハ実從才と云ふ清毛物と云義下申書上申すは
存生し申すは是れ也

一 大坂天満九丁目中筋通烏井ノ内筋分司筋
備家堀に杏房と云ふは此間花と云ふは是れ
爲米の尤衆宿下と云ふは是れ宿下と云ふは
系越右の娘と云ふは是れ是れ是れ是れ是れ
是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ

河内一江振之國許下流也越中書之
留古用才多月人古早途下流也
越一渡延引とせし渡換抄の流を
復故を子金子大程多我らす志
中し修志不涉も子金子は均先
子しと礼誠も誠不流の所小身
右の通系伏見八情大坂修の
とく為に早水為世の概大坂所
大坂修の流と下に天満の与力
通と下に流を定むるも通と

一 瀬田又と最最後節如所書付と通は概
概し其外は在江中又の道中筋系伏見八情
大坂下右の流の概と通は不
度不也又修成の流也
瀬田又と最最後節如所書付と通は概

在所は揚州の北東村ら河内と下流の同
因如古川中陣中と古川の
右少桑村の早途
右の流の概と通は不

右の物初同化六之橋之八下と状は於江中
中務治以内付及十帝古史と古史の古史
三月、四月、五月、六月、七月、八月、九月、十月、十一月、十二月、
状は不也

身許の拙者共其評大身極... 先身内務卿... 以之... 其評大身極... 先身内務卿... 以之... 其評大身極... 先身内務卿... 以之...

八月廿四日

幸井玄漢判

内傳在馬板

右書状因十月廿五日... 一々返書... 其公書

八月廿四日... 以之... 今後智恩院所... 大之節及... 遠海... 遠在... 今亦... 彼方... 大之節及... 大之節... 及... 用人... 大之節...

遠くを好む大に師に比知か不及り若くは附之志以成長る如病
 は度事有は信に不及り均九下也介兄弟有は多る心成不
 所しそ社友七皇女と云ふ事有は物に事特因名勝物に下
 羅まは其外同有る者も他人も七心要一法は若くは細
 戸方まは以時節中守方七以誠心物に下り一戸に事
 といふ事あり心母宿りし方七以誠心物に下り一戸に事
 いふ事あり心母宿りし方七以誠心物に下り一戸に事
 七の戸に今在り城下り七里余有る心知り可事あり大源寺
 居りし便更七不存し事あり心知り可事あり大源寺
 心知り可事あり心知り可事あり心知り可事あり心知り可事あり

十月廿日

坂内傳右衛門

寺井玄澄様

相者

大石内務助	良雄	死年四十二	安場一平
吉田忠兵衛	兼亮	六十八	雨森清定
原 碧雲	元辰	五十二	増田貞吉

片岡源左衛門	高房	三十七	二宮新左衛門
岡瀬久次	正明	六十二	中尾元助
小野寺十内	秀和	六十一	横井淡右衛門
岡 亮彦	光延	六十九	西本屋平吉
儀貝十郎兵衛	正久	二十九	吉留又左衛門
城之内彦彦	金丸	七十八	元良市右衛門
近松勘六	行重	三十二	横山作之丞
富森物吉	正固	三十四	氏家平吉
潮田又之丞	高教	三十二	一宮源正郎
早水藤左衛門	満亮	四十	魚住也右衛門

赤垣源光 重堅 二十八 中村角多
 奥田孫多 董盛 二十七 友清長多
 矢田六郎多 助武 二十九 行田平多
 大石瀨左多 信清 二十七 吉田孫九郎

義士介浪

大石内務助 良雄 執事世祿 千五百石
 吉田忠左多 兼亮 郡代 二百石
 行田源左多 高房 側用人 三百石
 間瀨孫九郎 正辰 正明男
 大石主税 良金 良雄男
 原惣右衛門 元辰 足狂頭 三百石
 間瀨久多 正明 大目付 二百石
 小野寺十右 秀和 京屋鋪留守 居百五十石

小野寺幸彦 秀富 秀和男大高 忠雄弟二
 間十次郎 光貞 光延男
 磯貝十郎九郎 正久 側用人 百五十石
 堀部安彦 武庸 金丸養子 二百石
 富森助左多 正固 使番 二百石
 早水友左多 満堯 馬廻 百五十石
 奥田孫多 董盛 江戸侍 二百石
 大石瀨左多 信清 馬廻 百石
 菅谷少左多 政利 馬廻 百石
 本村甚右多 貞行 馬廻 百五十石
 間 亮彦 光延 馬廻 百石
 間 新六 光風 光延男浪人 中堂又助家客
 堀部源彦 金丸 江戸留守居 三百石
 近松勘六 行重 馬廻 二百五十石
 潮田又左多 高教 国繪圖役 二百石
 赤垣源光 重堅 馬廻 二百石
 矢田六郎多 助武 馬廻 百五十石
 中村勘助 正辰 右筆 百石
 千馬之助多 光忠 馬廻 百石
 岡野金左多 包秀 馬廻 二百石

不破教左馬

正種 濱辺普請 奉行喜浪人

大高源右

忠雄 近習二十 五人扶持

貝賀元左馬

友信 藏奉行金 十兩三入扶持

村松元左馬

秀直 廣同番 廿五入下子

村松之右馬

高直 秀直男

岡崎元左馬

常樹 礼座勤定 奉行右同

杉野十平次

次房 近習金兩 三人下子

右田元左馬

兼定 近習金十兩 三人下子

奥田貞七郎

行高 重盛養子 近松勤定 初少次郎下子

膳田新左馬

武堯 馬廻 百石

武林唯七

隆重 近習金十兩 三人下子

倉橋傳助

武幸 石同

市原得助

宗房 金奉行 十石三入下子

矢頭右馬七

教兼 長助男若 五人下子

茅野初助

常成 徒目有金 五兩三入下子

横川勘平

宗利 徒士金五兩 三人下子

神崎与右郎

則休 右同

三村次郎左馬

包常 臺所小役人 録九下子

以上四十六人

寺坂右馬

信行

足輕同盟 義士一列

茅野之平

某

馬廻同盟 衆先立殉死

橋本平左馬

某

馬廻同盟事蹟不詳神崎則休カ筆記ニ 橋本某自殺ト云ニ

矢頭長助

某

同盟病死故ヲ以教兼父志ヲ継テ 死ヲ致セリ

岡野右左馬

某

同盟病死以包秀父ノ 志ヲ継テ死セリ

曰抑此擲者予先人之所珍而嘗愛此詩意
之深切而足以戒人矣予十二歲逮父時侍座
就問之稍解其意先人顧賜予示來食頃不
去吾躬且愛此語不忘於今寄遺以謝至誠
幸察予心有在焉酬山涕泣愛之常置机
上一日罹病將死與弟子法音寺僧仙隨僧某
與予始為方外之友情好最厚他日遺予吊
珍而藏之殆二十年矣第恐百年之後無知
是物之所從而徒為翫器而或羞於俗子之
手故誌之以告兒孫云

